

平成30年度 和歌山県立那賀高等学校 第4回学校運営協議会

1 日 時 平成31年2月14日（木） 15：00～16：30

2 会 場 那賀高等学校 応接室

3 出席者 委員5名 事務局及び学校職員6名

4 日 程 （1）開 会

校長あいさつ 那高キャリア教育支援授業及び平成30年度学校運営協議会運営についての御礼、本日の協議題説明

（2）平成30年度那賀高校 キャリア教育支援授業及び講師バンク制度を振り返って（成果及び課題について）



—那高キャリア教育支援授業生徒アンケートから—
生徒側アンケートからは「自分にとってためになった」「また受けたい」という回答が多く、生徒にとっては有意義な授業であったことが示された。

講師側アンケートからも「自分にとって有意義」「両者にとって有意義」「自分にとって楽しい時間」「両者にとって楽しい時間」という回答が多く、主として地域住民からなる講師もキャリア教育支援授業に対して好評価をしていた。

- ・講師の先生、そのものの生き様、人生を吐露して率直に話してくれることを期待した。
- ・事前、事後の学習はしなかった。段取りもしていないし、共通テーマも設定しなかった。事前事後の学習があれば、質問も話し合いももっと盛り上がったかもしれないが、最初からはそのようにしなかった。
- ・教育的効果をどうしても考えてしまうが、生徒が講師との雑談の中から講師の本音が聞けることは意義がある。
- ・もっと双方向性がでてくれば、いっそうよい授業になる。講師、生徒ともに遠慮しているグループもあった。
- ・生徒と話していると、生徒が意外と夢を持っていると感じてうれしかった。育っている環境は違うが、夢を持っていて、正直に語っている。こうしたことを講師は引き出してあげなければいけない。
- ・話していると目標を持っている生徒も少なくない。
- ・次に夢を実現するにはどうしたらよいか知ること。足りないのは心を動かし、自分から何かを知ろうとする前向きさや意欲がこの授業をとおして身につくきっかけとなればよい。

(3) 最後に平成30年度那賀高等学校 学校運営協議会についての総括
—次年度に向けて—

○ 委員から出された主な意見



- ・ 教室（場所）はたくさん必要、1クラス2グループまで。
- ・ 1グループあたりの生徒数は、もう少しあった方が良く
という意見もあるが、人数が多くなれば話づらくなる。
- ・ いろいろな人生を吐露してもらうには講師はもう少し多
くても良い。講師希望を増やすには、実際の授業を見て
もらえればよいかな。
- ・ それでは講師は緊張するので、今年度の授業風景の写真を次年度講師募
集の時、見てもらえればイメージつきやすい。ビデオならもっと授業の
到達点がわかってなおさらよい。次年度はビデオを撮らせてもらいたい。
- ・ 「フランクな状態、雑談の中から生徒は価値を見いだす。」というこの授
業の性格付けは大事にしたい。一方那高の進路指導では系統的、計画的
に進路指導をする。
- ・ 進学や就職の面接の時は話すのを苦手にする生徒も少なくない。この授
業は大人と話し慣れていない生徒が早期からその練習ができる意味合い
も持つ。
- ・ 双方向のコミュニケーション、初対面の大人と対峙するきっかけとなれ
ば良い。
- ・ そのきっかけは多い方が良い。しかし実際問題として、何回もできない
からこの授業は年2回ぐらい実施したい。
- ・ 講師、生徒のアンケートや学校運営協議会委員のご意見からもこの授業に
関してはその他大きな改善点はない。学校運営協議会が学校を支援して
「那高キャリア教育支援授業」が実践できたことは成果である。次年度は
より効果的な授業が実践でき、部活動や日頃の勉強につながっていけばと
願っている。

(4) 校長謝辞